

と呼ばれた概念を含む)などに分類される。肥満関連型が最も多い。悪性型では口囲に出現しやすい。

### 病理所見

乳頭腫、過角化、基底層の色素沈着を3主徴とする(図15.45)。acanthosis nigricansという病名ではあるが、表皮肥厚(acanthosis)はみられないことが多い。

### 診断・治療

臨床症状から診断する。悪性型では、内臓悪性腫瘍に先行ないし同時発生する 경우가70%以上を占めるため、癌の早期発見にもつながる。基礎疾患の治療や肥満の改善により皮疹も軽快する。

## 7. 融合性細網状乳頭腫症 confluent and reticulated papillomatosis

体幹(とくに乳房間, 上腹部)に灰褐色の色素斑~角化性丘疹が生じて, それらが融合して網目状の局面を形成する(図15.46)。思春期から青年期に多く発生し, 慢性に経過する。自覚症状はない。原因不明であるが *Malassezia* 属感染の関連が示唆されている。抗真菌薬外用, ミノサイクリン内服などが行われる。

## 8. 腫瘍随伴性先端角化症 paraneoplastic acrokeratosis

同義語: Bazex 症候群 (Bazex syndrome)

四肢末端, 鼻尖, 耳介などに対称性に乾癬に類似した紅色局面が出現し(図15.47), その数か月後に内臓悪性腫瘍が顕在化するものをいう。40歳以上の男性に多く, 食道, 肺, 咽頭, 喉頭の扁平上皮癌を背景とすることが多い。角化病変は悪性腫瘍の病勢に並行する。

## 9. 鱗状毛包性角化症 (土肥) keratosis follicularis squamosa (Dohi)

体幹, とくに腰部, 腹部, 殿部に毛孔に一致した黒点が左右対称性に生じ, それを中心に3mm~1cm大の灰白色, 円形葉状の鱗屑が付着する(図15.48, 15.49)。自覚症状はない。青年期に好発する。

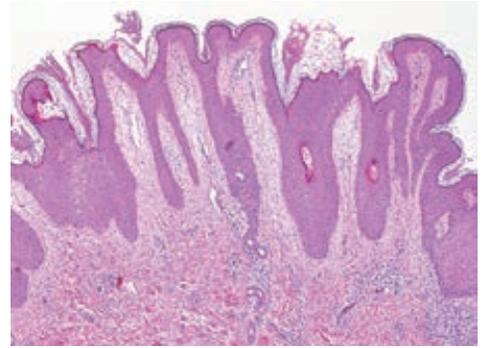


図 15.45 黒色表皮腫の病理組織像

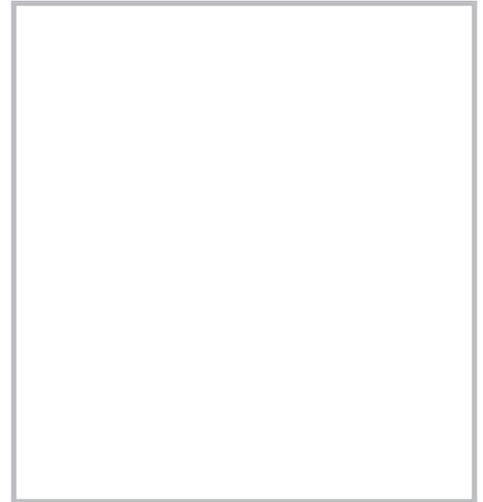


図 15.46 融合性細網状乳頭腫症 (confluent and reticulated papillomatosis)



図 15.47 腫瘍随伴性先端角化症 (paraneoplastic acrokeratosis)



図15.48 鱗状毛包性角化症(土肥)  
〔keratosis follicularis squamosa  
(Dohi)〕

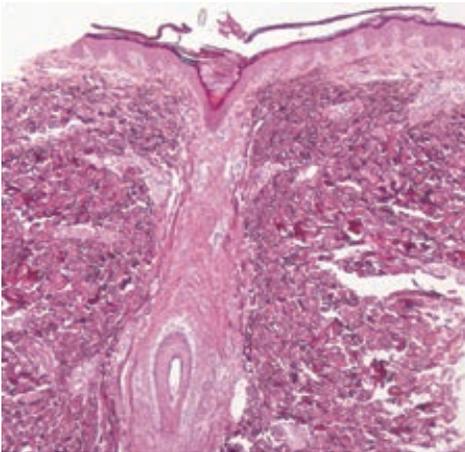


図 15.49 鱗状毛包性角化症 (土肥) の病理組織像



図 15.50 固定性扁豆状角化症 (hyperkeratosis lenticularis perstans)

### 10. 連圈状秕糠疹 (遠山) pityriasis circinata (Toyama)

同義語 : pityriasis rotunda

腰部, 腹部, 殿部に生じる後天性角化症. 皮疹は直径1~数cm, 正円形あるいは楕円形で境界明瞭な角化性の淡紅色局面である. 褐色~灰白色のちりめん皺様の落屑を伴う. 内臓悪性腫瘍の合併例がある.

### 11. 固定性扁豆状角化症 hyperkeratosis lenticularis perstans

同義語 : フレーゲル病  
Flegel 病

中高年の四肢, とくに足背や手背に好発. 直径1~5mmまでの赤~茶褐色調の, 鱗屑が固着した棘状の扁平隆起性丘疹で, 左右対称性に発症する (図 15.50). 原因不明で慢性に経過する.

### 12. 後天性魚鱗癬 acquired ichthyosis

#### Essence

- 悪性腫瘍 (悪性リンパ腫など), サルコイドーシス, 薬剤などに続発.
- 尋常性魚鱗癬に類似した臨床像をとるが, 関節伸側のみでなく屈側も侵す.